東日本大震災被災地応援実行委員会たより

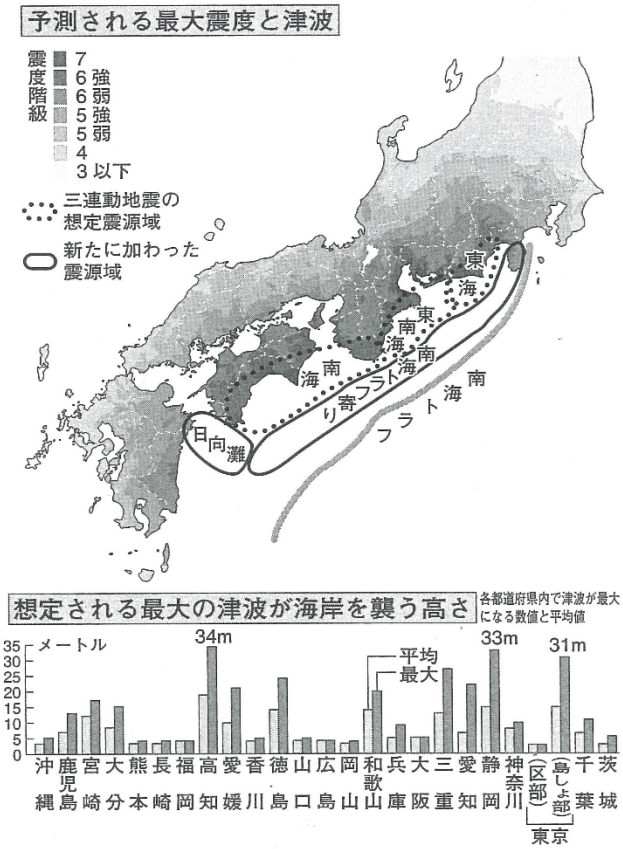
# 轍わだち

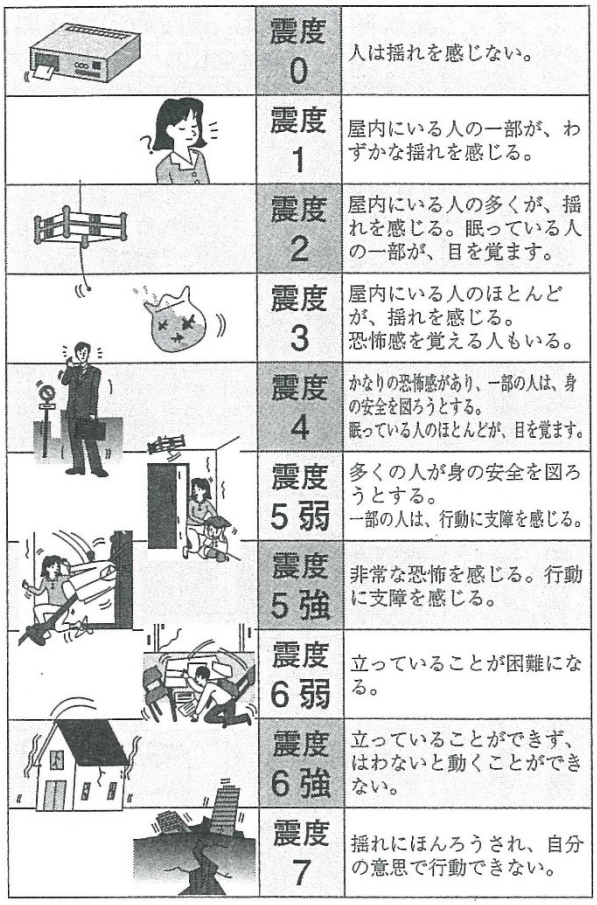
２０１９．６．１１　NO．１１２

# 西日本大震災とは何か？

昨年の６月１８日に起きた「大阪府北部地震」を覚えていますか。本校でも JR や京都・大阪を結ぶ私鉄が運休し帰宅困難に見舞われる生徒が多くいました。通学に影響を及ぼしただけでなく、実際に家が壊れたり、満足のいく生活に戻るまで時間がかかった経験をしている生徒もいます。日本に住む以上、逃げられないのが自然災害です。９月４日の台風２１号の被害も、その損害に追い討ちをかけました。

その中で、私たちは次なる災害を想定しなければ生き延びられません。もしそれを想定するならば、「西日本大震災」とよばれるものかも知れません。




鎌田浩毅氏（京都大学大学院・人間環境学研究科教授）によると、将来の日本で起こる巨大地震は「直下型地震」と「連動型地震」が想定されます。とくに東日本大震災のようにプレート境界のずれが一気に連動するようになると、東海沖、東南海、南海に巨大津波をともなう地震となります。また津波の到達時間も早いと予測されています。過去の経験則やシミュレーションを見ても、2030 年代～40 年代にはかなりの確率でおこると言われています。　さて、みなさん 20 年後にはどこで何をしているでしょうか。そのときに命運を分けるのは「経験」を忘れないことです。**自分の身を守る行動（自助）、集団で身を守る（共助）、復興に向けて地域を助ける（公助）**のどれにも意識を高めることが大事です。

# 今も…5万1184の人たちが…

8年と3ヶ月＿この歳月を住み慣れた土地と、自宅から否応なしに引き離されて、見知らぬ所で生活を余儀なくされている人たちのご苦労は私たちの想像をはるかに超えるものに違いありません。

東日本大震災と東京電力福島第1原発事故のために避難生活をしている人がまだ、これほど多くいる現実を受け止め、私たちが考え、行動しなければならないことを自分自身に問いかけたいと思います。

避難先は47都道府県993市区町村です。施設別では、仮設住宅や民間賃貸住宅が2万6768人で、後の方々は親戚や知人宅、226人の方は病院暮らしをしています。

（復興庁：5月 31 日発表）

# 104回ー3以上ー13回

## この数字何だと思いますか？

実は……104回は5月11日から6月6日までに国内で起きた地震回数。
5月21日大阪北部で起きた地震は震度3.
5月25日千葉南部で起きた地震は震度5弱
震度3以上の地震は13回起きていました。

南海トラフ巨大地震による想定死者数が32万3千人～23万1千人になったと政府の防災会議が5月31日に発表しました。全壊や消失する建物数も238万6千棟から､209万4千棟に試算されました。いずれも莫大な数です。

# 学び、準備します！防災！

委員会では、新入生の皆さんの防災グッズを整えることを引き受け、本日その準備を行います。手伝うことができる人は、昼休みに会議室へ来てください。また８月５日には、仙台まで赴き、防災に取りくむ宮城県の多賀城高校（災害科学科）や兵庫県の舞子高校（環境防災科）とのフィールドワークに参加します。他にも震災遺構を見学したり、体験者の話を聞くことでより理解を深めます。